

檜山庫三*: 牧野標本館雑記 (11)

Kozo HIYAMA*: Miscellany from Makino Herbarium (11)

§ ケナシチャンパギク チャンパギクの葉裏無毛品であるケナシチャンパギクは、チャンパギクのある所には散発するものであって、単なる品種にすぎない。チャンパギクにも葉裏多毛のものからほとんど無毛に近いものまである。

Macleaya cordata (Willd.) R. Br. forma **Thunbergii** (Miq.) Hiyama, stat. nov.
Bocconia cordata Willd. β . *Thunbergii* Miq., Prol. Fl. Jap, 199 (1867).—*Macleaya cordata* β . *Thunbergii* Miq., l.c.375 (1867).—Nom. Jap. Kenashi-chanpagiku.

§ マツゲヒメハギ (新称) ヒメハギの果実の翼に縁毛を生じるものがある。八代中学の飯野越氏が 1905 年 7 月 25 日に採集されたもので、産地の記入はないが、九州での採集品かと思われる。これをマツゲヒメハギと新称する。

Polygala japonica Houtt. forma **ciliata** Hiyama, nov. f.

Alae capsularum margine ciliatae. Getera ut in typo. —Nom. Jap. Matsuge-himehagi (nov.).

Hab. Kyushu ? : Prov. Higo ? (K. Iino, 184, Jul. 1905—type in Makino Herbarium).

§ ケナシオキナワツゲ (新称) オキナワツゲで枝や葉の無毛のものがある。鹿児島県奄美大島久場で 1911 年 3 月に採集されたものであるが、採集者は不明である。これをケナシオキナワツゲと新称する。なお別に沖縄島産採集者、年月不明のものがある。

Buxus liukiuensis (Makino) Makino forma **glabra** Hiyama, nov. f.

Planta tota glabra.—Nom. Jap. Kenashi-okinawatsuge (nov.).

Hab. Prov. Osumi: Kuba, Amami-ôshima (leg.?, Mar. 28, 1911—holotype in Makino Herbarium); Okinawa (leg.?).

§ シロイヌウメモドキ (新称) 広島県安佐郡可部町の南原峡で 1934 年に牧野富太郎先生が採集されたイヌウメモドキの白花品(雄株)の標本がある。これをシロイヌウメモドキと新称する。

Ilex serrata Thunb. forma **alba** Hiyama, nov. f.

Flores albi. Getera ut f. *argutidens* Hara. —Nom. Jap. Shiro-inuumemodoki (nov.).

Hab. Hondo: Nabara-kyô, Prov. Aki (T. Makino, 1934—holotype in Makino Herbarium).

* 東京都立大学理学部牧野標本館。
 versity.

Makino Herbarium, Faculty of Science, Tokyo Metropolitan Uni-

§ **イシズチミズキ** (新称) 四国の高山に生じるミズキは葉裏が無毛となる点で常品と相異なる。標本館には高知県手筈山 (織田千齡, 1904 年 8 月 10 日), 愛媛県石槌山 (奥平幹一, 1903 年 7 月), 徳島県剣山 (採集者 不明, 1928 年 8 月 23 日) 産のものがあるが, これらはいずれも海拔 1800—1900 m 級である。葉の円くなる傾向のものもあるが, 本州のタカネミズキとは同じでない。これをイシズチミズキと新称する。

Cornus controversa Hemsl. var. **shikoku-montana** Hiyama, var. nov.

Folia subtus primo pilis malpighiaceis (bipolaribus) minutis sparsis pilosa, demum praeter in axillis nervorum pilis simplicibus plus minus pilosis denudata. —Nom. Jap. Ishizuchi-mizuki (nov.).

Hab. Shikoku: Mt. Ishizuchi, Prov. Iyo (K. Okudaira, 51, Jul. 1903—holotype in Makino Herbarium); Mt. Kenzan, Prov. Awa (leg. ?); Mt. Tebako, Prov. Tosa (S. Oda, Aug. 10, 1904).

§ **ツリガネツツジとその類品** ツリガネツツジ (アズマツリガネツツジ) の学名とされている *Menziesia ciliicalyx* Maxim. var. *bicolor* Makino については前から疑問を持っていたが, そのタイプ標本が出て来たので, 調べた結果を述べる。この学名のつけられた植物は牧野先生が相模国箱根の冠岳で 1914 年 5 月 26 日に採集された花のあるもので 7 枚あるが, これは *M. ciliicalyx* var. *purpurea* Makino で花冠の先だけが紅紫色となる一品である。したがって箱根の「ツリガネツツジ」はアズマツリガネツツジとは別個な種類ということになる。原記載の発表に際して, この「ツリガネツツジ」はムラサキツリガネツツジと同じ場所に見られる, と書かれている。ツリガネツツジという名は地方によって幾つかの植物につけられているが, 文化 8 年 (1811 年) 出版の「七湯の枝折」絵巻によれば, 当時箱根で「釣鐘つつじ」と称したものは花冠の先だけが色づいたものであって, 蘆湯に多しとある。今日でも蘆ノ湯付近にはムラサキツリガネツツジを見かけるから, 牧野先生はこの「釣鐘つつじ」の名を採られて var. *bicolor* の和名に当てられたようにも考えられる。また, われわれの知る限り, 箱根にアズマツリガネツツジは産せぬようである。そこで混同をさけるために var. *bicolor* にはハコネツリガネツツジの新名を与えておく。ムラサキツリガネツツジ (ハコネツリガネツツジも含めて) はツリガネツツジに比し, 若枝, 葉柄, 葉面, 葉縁, 小花柄に開出した, ずっと長い毛が比較的多量に生じ, 小花柄や萼の縁毛は扁平で, 腺毛を混生するか, あるいは全く腺毛を欠き (var. *bicolor* のタイプはこれ), 小花柄の長毛の中には先の 2 裂するものを交えていることがあるなど, ツリガネツツジとは, 分布の点以外にも, 相当の相異が認められる。なお, ツリガネツツジをウラジロヨウラクから区別するなら品種の關係に置くのが適当であろう。萼裂片の形は両者の間に様々な中間形が出て来て, 地理的にも分け難い。ツリガネツツジの学名を *Menziesia multiflora* Maxim. forma *brevicalyx* Hiyama と定める。

ついでながら、上州奥利根の上越 国境にある平ヶ岳 (1963 年 7 月, 土屋守君採集) にはツリガネツツジに似て非なる者がある。ツリガネツツジとは葉が小形でとがり、表面に比較的粗毛の多いこと、花冠全体が紅紫色であること、特に子房の一部に微短毛 (この毛は九州のヨウラクツツジの子房の毛に似てやや短かい) があって剛腺毛を欠くことなどの諸点で相違するので、これをトネツリガネツツジ (新称) として区別したい。平ヶ岳 (標高 2140 m) の頂上近く (群馬県利根郡水上町地内) に生じるという。

また岩手県の岩手山 (1908 年 6 月, G. Yamada 氏採集) にはツリガネツツジに似て子房の上部に剛腺毛をやや多生し、更に下半分に微短毛をやや多生する者がある。これをイワテウラジロヨウラク (*M. multiflora* var. *iwatensis*) と新称する。

次に広島県安佐郡可部町の南原峠にはサイリンヨウラクで葉裏全面に明かに開出する短毛のあるものがある。また脈上にも扁平でくねり曲がる傾向のあるやや開出した長毛がまばらに出る。小花柄や萼縁の腺毛の長い点はケナガウスギヨウラクに似ている。これは牧野先生が 1928 年に採集されたもので、果実をつけた 3 枚の標本あがる。邦産ツリガネツツジ属で葉裏全面に毛の出るものは、外にゴウザンヨウラクがあるだけであるが、後者の毛はルーペで認められる程度のものにすぎない。上記南原峠産のものにアキツリガネツツジの新名を与える。

1) *Menziesia lasiophylla* Nakai.

M. ciliicalyx (Miq.) Maxim. γ . *purpurea* Makino in Journ. Jap. Bot. 1: 10 (1916).—*M. multiflora* Maxim. var. *purpurea* (Makino) Ohwi, Fl. Jap. 883 (1953).—Nom. Jap. Murasaki-tsuriganetsutsuji.

Distr. Central Honshu (Sagami, Suruga & Kai).

forma **bicolor** (Makino) Hiyama, stat. nov.

M. ciliicalyx α . *bicolor* Makino, l.c. (1916) e typo. *M. multiflora* var. *bicolor* (Makino) Ohwi, l.c. (1953) quoad tantum basionym.—Nom. Jap. Hakone-tsuriganetsutsuji (nov.), Tsuriganetsutsuji (sensu Makino, 1916).

Distr. Central Honshu (Hakone, Prov. Sagami).

Although *Menziesia lasiophylla* Nakai is referred by some authors to a variety of *M. multiflora* Maxim., it seems to me to have good distinctive characters in the hairiness. The scaly long hairs of the pedicels and calyces should make the shrub easy to recognize among its congeners. From the observation of the type specimen I have no hesitation to accept *M. ciliicalyx* var. *bicolor* Makino as a mere form of *M. lasiophylla* Nakai.

2) *Menziesia multiflora* Maxim. var. *multiflora* forma *multiflora*.

M. ciliicalyx var. *multiflora* (Maxim.) Makino in Bot. Mag. Tokyo 22: 159 (1908).—Nom. Jap. Urajiro-yôraku.—Distr. Hokkaido to Shikoku.

forma **brevicalyx** Hiyama, nov. f.

M. multiflora var. *bicolor* Ohwi, l.c. (1953) excl. basionym.

Lobi calycis late ovatis vel ellipticis 1—3 mm longis. Cetera ut in typo.—Nom. Jap. Tsurigane-tsutsuji, Azuma-tsuriganetsutsuji.

Hab. Hondo: Mt. Takazuma, Togakushi, Prov. Shinano (K. Ishikawa, Jul. 15, 1905—holotype in Makino Herbarium).—Distr. Hokkaido to Shikoku.

In *Menziesia multiflora* the calyces are variable in size and shape, occasionally the divergence is remarkable. Whether this form is a distinct taxon or not depends upon the point of view, but I propose here to take it as a form. var. **Tsuchiyae** Hiyama, var. nov.

Ramulus juvenilis glaber. Folia ovata-elliptica apice acuta supra plus minus hirsuta ca 2 cm longa. Flores subumbellati, pedicellus ca 10 mm longus glaber, calyx 5-lobatus, lobis ovatis 1.5–2 mm longis margine parce glandulosi-ciliatis, corolla purpurea 10–12 mm longa, ovarium circa medium minutissime pubescens, non glanduloso-hirsutum. Cetera ut var. *multiflora*.—Nom. Jap. Tone-tsurigane-tsutsuji (nov.).

Hab.: Mt. Hiragatake, Prov. Kozuke (M. Tsuchiya—Jul. 16, 1963—holotype in Makino Herbarium).

This plant is similar to var. *multiflora* at the first glance, but it has the ovary with fine, short hairs, instead of glandular, rough ones, and the pedicels are glabrous. A specimen, so named *M. lasiophylla* Nakai from Mt. Amakazari, Prov. Echigo, preserved in the herbarium of National Science Museum, Tokyo, comes near to this variety, but its pedicels are not naked. This may represent a form of this new variety.

var. **iwatensis** Hiyama, var. nov.

Affinis var. *multiflorae*, sed ab eo differt ovario supra medium glanduloso-hirsuto et infra medium breviter pubescente distinguenda.—Nom. Jap. Iwate-uraziroyôraku (nov.).

Hab. Hondo: Mt. Iwate, Prov. Rikuchu (G. Yamada, Jun. 27, 1908—holotype in Makino Herbarium).

3) *Menziesia ciliicalyx* (Miq.) Maxim.

var. **akiensis** Hiyama, var. nov.

Ramulis novellis minute pubescentibus. Folia supra laxius ciliata, subtus tota pilis tenuibus patentibus persistentibusque pubescentia et ad venas pilis lepidotis longioribus subpatentibusque sparsim vestita. Capsula pilis tenuioribus

longioribusque glanduloso-hirsuta.—Nom. Jap. *Aki-tsuriganetsutsuji* (nov.).

Hab. Hondo: Nabara-kyô, Kabe, Prov. Aki (T. Makino, 1928—holotype in Makino Herbarium).

This variety of *Menziesia ciliicalyx* is quite distinct and easily recognized from the typical plant because of the presence of the fine hairs on the under-surface of the leaves.

□ S. Seidenfaden & T. Stiminard: **The orchid of Thailand**; A preliminary list, pt. 1, 1959. pt. 2-1, 1959. pt. 2-2, 1960. pt. 3, 1961 未完. pp. 516, fig. 381, color pls. 21, Siam Society Bangkok 60 年以上も前に William がタイ国ラン科 100 種ばかりを出版して以来、この国のラン科のまとまったものがなかった。著者の 1 人はデンマーク人、1 人はタイ国の森林官史で 1956—59 年、ここで広く採集した。2 人共にランの専門家ではなく、また文献や古い標本を見難いので preliminary の形で発表したと書いてあるが、なかなかよくやってあって、新種などと思われるものも遠慮して命名せず番号のままになっている。ビルマ、マレー半島、旧印度支那に比したこの方面の穴をうめた好著である。 (津山 尚)

□ Hui-Lin Li: **Woody flora of Taiwan** 974 pp. 371 figs. Morris Arboretum & Livingston Publ. Co. 1963 約 8,800 円 台湾に自生する木本植物をマニュアル形式で一冊にまとめた便利な本である。著者自身の見解によって 1030 種と多くの変種に整理し、新しい意見が各所に述べられている。属種への検索表と、おのおのについて記載分布が記され、また原著名と異名、それに主な新しい文献と代表的標本が引用されているので研究に使用する際大変役に立つ。属の大部分は図解されているが、なお不足は近年出版された劉榮瑞: 台湾木本植物図誌上(1960)下(1962)と併用すると興味深く参考になる。Fig. 289 と 290 が入れちがっていたり細かい点で一層の注意が望まれるが、体裁、印刷はよくできている。 (原 寛)

□ 内藤 喬: 鹿児島民俗植物記 著者の肖像写真 2, 324 pp. 1964, 鹿児島大学農学部造林学教室同刊行会発行、¥ 1,200 故内藤教授が多年にわたり収集された植物名の方言の集成で、詳しく採集地名が記してある。採集地の範囲は鹿児島県以外の他地方の方言も集録してある。また、それぞれの植物利用にもふれている。巻末には 26 pp. にわたる野草漫稿と題して万葉集の植物 22 種についての考察が収めてある。また、和名索引、方言索引と鹿児島市町村合併一覧表がつけ加えてある。 (久内清孝)

□ 田中端復: 釧路の植物 194 pp. 口絵 2, 写真 132, 地図 1, グラフ 2, 1963, 釧路市発行、¥ 500 (書店割引なきため一般書店では扱わない)。釧路地域の植物を生態的にまとめたもの。地区別にかいてあるので目録ではないけれども、巻末索引を見れば全植物がわかる。生態的に記録したものだけに「野地坊主」だの「野地眼」だのききなれない地形が説明されていて、北地景觀に接することができておもしろい。 (久内清孝)